



シマフクロウの孵化と巣立ち



今年のゴールデンウィークは、後半が雨と低温続きで、入園者数は伸びませんでした。それでもシマフクロウの開花とともにシラカバやヤナギ、続いてミズナラなどの広葉樹が芽吹き始めました。アカゲラが園内のシラカバの折れた枝の先にくちばしを付けて、じっとして水を飲んでいました。この時期にシラカバの枝を切ると、驚くほどの水が吹き出してきます。休眠から目覚め一気に開花、そして葉を付けるためです。

4月の閉園中に、ライオンのレイラが死亡しました。レイラの死で初代もうじゅう館の飼育個体はいなくなりました。

また、タンチョウの抱卵開始とシマフクロウの孵化がありました。シマフクロウについては昨年引き続き2度目の産卵、抱卵でした。昨年は無精卵に終わりましたが、今年は交尾も確認できており、期待は高まっています。

ました。冬期開園期間の抱卵中から巣内の様子をカメラで記録し、モニターで来園者にも公開しました。閉園期間中になってしまいました。おめでとう！と盛り上がりました。父鳥がせっせと餌を巣に運んで母鳥に渡し、母鳥がひなに給餌して、ひなたちは無事に成長していきましました。ゴールデンウィークも終わり、ひなたちはぐんぐん成長し、夜間だけでは足りずに昼間でも父鳥が餌の魚を取り、巣に運ぶ姿が見られるようになりました。外気温も上がり、ひな自身の体力も付いてきて、母鳥も巣を離れる時間が長くなってきました。巣の入り口から、ひなたちが顔を見せる時間も増えてきました。この手紙が届く頃には、無事に巣立ちをしていくことでしょう。

シマフクロウは北海道の豊かさの象徴であると同時に、165羽というあまりにも少ない生息数は、北海道の現状の象徴でもあります。彼らの命をつなぐ営みを見ていると、私たちが大切にしなければいけない自然の姿が具体的に見えてきます。

旭山動物園の催し

旭山動物園 東旭川町倉沼 電話36・1104

ワンポイントガイド

飼育員が動物たちのエピソードなどを紹介
毎週日曜日、祝日 13:30から

絵本の読み聞かせ

毎月第2土曜日
11:00から
動物図書館



51回目の開園記念日

7/1(日)に飼育員によるマルチポイントガイドなど、様々な催しを開催

サマースクール (全3回)

飼育体験で動物の生態を学ぶ
8/1(水)~3(金) (各日日帰り)
全日参加できる小学5・6年生
定40人(選考)
郵送で6/30(土)まで(必着)

とことん旭山

「動物園裏側体験」

日きりん舎・かば館=7/7(土)、
旧キリン舎・旧カバ舎=7/14(土)
いずれも11:00から
定各20人
電話で各日の3週間前9:00から

夕暮れの動物園撮影教室

7/14(土) 17:30~20:00
定60人
写真家 今津秀邦さん
電話で6/14(土)9:00から

旭山自然観察会

「夜の動物園を散歩しよう！」

7/21(土) 18:30から
定15人
電話で6/30(土)9:00から



いのち輝く動物たち

カバの赤ちゃん誕生なるか？

5月にカバの百吉ももさち(雄・7歳)と旭子あさこ(雌・6歳)の同居を始めました。最初は臆病な性格の百吉が旭子に押されていました。歯が鋭いので互いに体に少しけがをすることもありましたが、徐々に仲良くなっていきました。そして、先日ついに交尾行動が確認できました。繁殖に成功すれば、旭山動物園では、平成4年以来26年ぶりです。2頭の間を温かく見守ってください。